

脳神経外科領域における  
基礎から手術手技・最新知見の  
すべてを網羅!

Principles and Advances in Neurological Surgery

# 脳神経外科学大系

Principles and Advances in Neurological Surgery

全 15巻

総編集

山浦

晶 千葉大学教授

編集

児玉南海雄

福島県立医科大学教授

河瀬

斌

慶應義塾大学教授

吉田

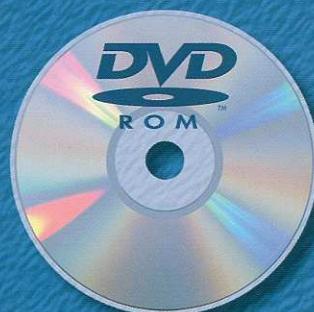
純

名古屋大学教授

橋本 信夫

京都大学教授

中山書店



## 他に類をみない エンサイクロペディア



総編集

千葉大学大学院医学研究院  
神経統御学教授

山浦 晶

『脳神経外科学大系・全15巻』がいよいよ刊行されることになりました。このような大きなシリーズが、脳神経外科学の分野で出版されることは、わが国では初めてのこと、総編集という立場でこの企画に立ち会えることをたいへん光栄に思う反面、責任の重大さを深く感じています。

脳神経外科学は人間の人間たるゆえんである脳の機能、すなわち人間の尊厳を守ることを究極の使命としています。

脳神経外科学は20世紀における目覚しい発展により、その重要性が社会に広く認識され、人類に貢献しうる医療のなかでも白眉の領域であることから、本邦においても基本的診療科の仲間入りをしています。特に20世紀後半にみられたコンピュータの発達と普及をはじめとするテクノロジーの医療・医学への介入は、脳神経外科学の診断および治療に革命的進歩をもたらし、また手術用の顕微鏡は術野の拡大と十分な光源により、これまでの不可能を可能にしました。一方では遺伝子に関する研究がすすみ、今世紀には診断と治療の面で、大きな成果を生むと期待されます。

今回刊行いたします『脳神経外科学大系』では、日本を代表する選りすぐりの著者が600名にも昇り、現在わが国で考えられる最高水準のシリーズになるものと期待しております。

さらに本大系では、編集者の強い希望により、DVDを活用するスタイルを取り入れることにしました。それにより、それぞれの分野で第一人者の手術手技を大系に取り入れ、技術を後世に残す“動画を有するエンサイクロペディア”として他に類をみないシリーズをめざしています。

最後に、本大系が、20世紀における脳神経外科学発展の総まとめとなり、また21世紀への新たなる跳躍台として大きな役割を果たすこと願っております。

## 推薦の言葉

### 基本的な手技から 最先端までを網羅



東京女子医科大学学長  
東京大学名誉教授

高倉 公朋

脳神経外科の診断・手術技術は20世紀後半に著しく進歩し、日常の診療内容が大きく変わりつつある。このたび、21世紀初頭のわが国で脳神経外科臨床の第一線を担う錚々たる方々の力を合わせた『脳神経外科学大系』(全15巻)が出版されることを誠に喜ばしいことである。

脳神経外科学は、外科学、内科学などと比較すると歴史が浅い領域のために、国際的には Youmans の全6巻に及ぶ教科書があるが、日本で、このような大系が出版されるのは初めてのことである。

この『脳神経外科学大系』には、脳神経外科学の基本的な診断・手術手法の解説はもとより、最近の医学の進歩に伴う遺伝子治療をはじめ、口ボット手術の技術のような先端的な情報も盛り込まれている。またDVDに収録した手術の動画を採り入れるなど読者の理解に寄与する工夫が盛り込まれている。

今後、日本の脳神経外科学診療の基本となる情報を集めた大系となって、日本の医学界に大きく寄与するものと信じている。

### ベストメンバーによる エンサイクロペディア



神戸市立中央市民病院院長  
国立循環器病センター  
名誉総長

菊池 晴彦

脳神経外科は、最近の30余年の間に、最も目覚しい進歩、変貌を遂げた医学の一つであろう。神経科学の発展や、診断や治療技術の進歩により、多くの未知の病因や病態が解明され、多くの治療法の選択も可能になってきた。

この時点で、現在わが国におけるベストのメンバーで、この脳神経外科のエンサイクロペディアが出版されることを誠に喜ばしいことである。第一線の研究者と臨床医の結集によるこの大系は、脳神経外科を志す若い諸君にとり、座右の書になるであろう。特にわが国では、症例の分散と、大学での症例の偏り、救急医療の不十分さ等から、今後の良い手術者の育成につき、憂慮の声が聞こえる昨今、動画による手術のポイント、コツ、考え方の記録は、手術の継承の面でも大きな貢献をすると思われる。

全15巻の早い完成が望まれる。

### 日本の脳神経外科学の 到達水準を集大成



国家公務員共済組合連合会  
佐世保共済病院院長  
九州大学名誉教授

福井 仁士

脳神経外科手術法の研究は20世紀になって始まった。1920年ウィーン大学の Tandler und Ranzi により発刊された Chirurgische Anatomie und Operationstechnik des Zentralnervensystems (中枢神経の外科解剖と手術法) には、屍体を用いて脳、脊髄のほとんどの部位への到達法が示されたが、実際にはそれらの方法で患者に手術が行われたわけではなく、手術の可能性を示したものであった。

20世紀の後半になって顕微鏡手術の出現、微小外科解剖学、麻酔学、生理学、生化学、診断機器および医療機器などの進歩により、現在あらゆる中枢神経の手術法は完成の域に達したと考えられる。

本大系は、日本の最前線の脳神経外科医による脳神経外科学の集大成である。第2次大戦後著しく欧米に遅れていた日本の脳神経外科がここまで進んできたことは喜ばしいことである。

今後、脳神経外科の治療法にはいろいろな進歩や変わった面がでてくるであろうが、その基盤となる教科書として役立つことを期待している。

## 脳神経外科学のBibleをめざして



福島県立医科大学  
医学研究科  
脳神経外科学教授  
**見玉 南海雄**



慶應義塾大学医学部  
脳神経外科学教授  
**河瀬 城**



名古屋大学大学院  
医学研究所細胞情報医学  
脳神経病態制御学教授  
**吉田 純**

## 脳神経外科学50年の総まとめ

中山書店の大系は、他の分野においては、数多く出版されている参考書や教科書のなかでもBible的存在となっていましたが、脳神経外科領域のそれはなくさみしい限りであります。このたび、「脳神経外科学大系」が刊行されることとなり、大きな喜びと同時に編集者の一人として重い責任を感じております。

幸い執筆をお引き受けくださった先生方は、本邦における脳神経外科の医療・研究の各分野において最新にして最高の水準にある方々ばかりで、updateで質の良い情報を提供していただきたいと確信しております。

本書が近い将来に「脳神経外科学のencyclopediaまたはBible」と呼ばれるようになります。本邦における脳神経外科学の発展に寄与・貢献することを心から願い、また期待しております。

## 型破りの脳神経外科学教典

慶應義塾大学医学部  
脳神経外科学教授  
**河瀬 城**

そらく初めてのことあります。脳神経外科の分野がそれはと広く成熟した証拠もあり、たいへん喜ばしいことに思います。本大系は、15巻で構成されていますが、その内容には現在指導的立場のあるほとんどの方が執筆されています。本大系は一方で脳神経外科学会が総力をあげて作成した教典ともいえます。

大辞典的教科書は一方、ともすると一般的な記述に終始して専門医の要望に答えられないことが多いように思います。しかし、本大系は実際の正例や手術手技を詳細に記すために手術動画をDVDとして提供する「型破り」の企画でこの問題を解決しております。また脳神経外科学領域では近年、疾患や手術の知識も求められるようになりました。そこで、1巻に脳神経外科以外の領域の神経科学の専門家にもご執筆をお願いし、「神経科学編」を加えて時代の進歩を先取る企画となっています。

中山書店の大系は、他の分野においては、数多く出版されている参考書や教科書のなかでもBible的存在となっていましたが、脳神経外科領域のそれはなくさみしい限りであります。このたび、「脳神経外科学大系」が刊行されることとなり、大きな喜びと同時に編集者の一人として重い責任を感じております。

幸い執筆をお引き受けくださった先生方は、本邦における脳神経外科の医療・研究の各分野において最新にして最高の水準にある方々ばかりで、updateで質の良い情報を提供していただきたいと確信しております。

本書が近い将来に「脳神経外科学のencyclopediaまたはBible」と呼ばれるようになります。本邦における脳神経外科学の発展に寄与・貢献することを心から願い、また期待しております。

## 専門領域の枠を超えた基準書



京都大学大学院  
医学研究科  
脳神経外科学教授  
**橋本 信夫**

### ゲストエディター

「第5巻 脳神経外科学教急医学と 救急医学の創知を結ぶ」



昭和大学医学部  
救急医学教授  
**有賀 徹**



「第10巻 機能神経外科学専門編集 新たな展開の原点」

日本大学医学部  
脳神経外科学教授  
**片山 容一**

「第14巻 リハビリテーション専門編集 正しい理解のために」

慶應義塾大学  
リハビリテーションセンター  
所長  
**木村 彰男**

当巻「閉塞性脳血管障害」では、診断法と治療法にめざましい進歩をとげています。私は企画の段階で大系としてまとめたものではなく、執筆者によって網羅的に構成された目次を見ています。また、もうひとつ担当故に基準書としての存在意義が大きいことに気づきます。また、もうひとつ担当した脳神経外科学医、整形外科医および放射線科医などによって網羅的に構成された本書はこの領域の基礎書として重要な意味をもたらします。

本大系は、現在のスタンダードとしての重要性は勿論、専門領域の枠を超えた真の意味での疾患領域別基準書となり、極めてユニークかつ今までにない広い視点からの専門書となると思います。

わが国における脳神経外科学の歴史を顧みるとき、昭和40年代の「支那戦争」が語題に上ります。頭部外傷患者が激増し、その後CTスキャナーの登場で診断と治療に絶大的威力を發揮したこと記憶に残っています。その脳神経外科学の救急医療における貢献は当時も今も異なるものではありませんが、脳神経外科学の進歩と同時に、救急医学もまた救急医療体制の整備と共に歩調を合わせて発展してきました。すなわち、昭和50年代から地域の初期／二次／三次救急医療体系の最後の要素として救命救急センターが地域ごとに整備され、今やその中核を救命医学が担っている現況です。そのような救急医学の守備範囲は①prehospital care、②ER(emergency room)における初期と③critical care(集中治療)の大きく3つの分野となります。①と②とは社会の変遷とともにその重要度をますます高っています。第5巻の編集には、脳神経外科学の進歩に加えて、まさに救急医学からの貢献も結果されています。

この「脳神経外科学大系」には、現在の脳神経外科学における収容が凝縮しています。脳神経外科学を専門的に学ぶための基礎的な教科本となるに違いありません。また、日常診療のためにも座右の書として活用されることが期待されます。脳神経外科学は、言語では明示できない知識(暗黙知識)あるいは実践知)にも重点を置く空間です。このような知識は、実践のための共同体に参加していく獲得されるものであって、詮索だけでは伝達するのではなく、語学だけではなく、その世界観を伝える新しい試みです。今後は、言語では明示できない知識の伝達にコンピュータがいるような形で活用されるようになるはずです。それは、あらゆる空間の情報が読み取れる力をもっているように思います。いつの日いか次世代の「脳神経外科学大系」が、これを引き継ぐはずです。しかし、この新しい試みは、わが国の脳神経外科学が迎えた新たな展開の原点として、長く記憶されるのではないかと思います。

高齢・少子化社会の到来、疾患構造の変化、介護保険の導入などによりリハビリ医学・病院の二つのは飛躍的に高まっています。しかしながらそれが何よりも大切なのはリハビリ専門とする医師は限られています。必ずしもリハビリが正確に理解されることは言えません。このように時期に、『脳神経外科学大系』のなかにリハビリ・介護を中心とした巻が組み込まれ、その編集をしてほしいとのお話をいただき、この分野の正しい理解のために奮んで参加させていただいたしたいです。執筆者は、現在のリハビリ医学の領域において中心的に活躍されている方々を選ばせていただきます。全体は、①リハビリの基礎知識、②疾患ごとの評価とリハビリ、③福祉・介護の知識、からなる3部構成として、脳神経外科学の先駆けの日常臨床に役立つよう心掛けました。後編法という観点からではなく、臨床的治療と併用する治療といふ意味で、より積極的にリハビリを活用してもらいたく、本巻がその一助となることを期待して止みません。

4章 破裂脳動脈瘤（も膜下出血）

4章 破裂脳動脈瘤（も膜下出血）

### 脳底動脈瘤

DVD

## 動脈瘤の高さと手術アプローチの決定 BA tip ANに対する手術アプローチの長所

椎骨脳底動脈移行部から脳底動脈の先端部の間に発生した動脈瘤を脳底動脈瘤と呼称し、発生部位に従って椎骨脳底動脈分岐部動脈瘤(VA union 1953)である。

三  
195



剥離して鼻腔に  
ない。

オールカラーで  
わかりやすいシーマを  
多数掲載

このようにして、*Syntaxis*は漸次的に編纂され、もとがてのものと比較して、明らかに進歩した。これは、*Syntaxis*を読む者たる筆者自身の知識の蓄積によるものである。*Syntaxis*が書かれてきたのは、古希臘語の文法書として、他の言語の文法書と並んで、その歴史的意義から見て、最も重要な文法書である。

A4判で写真を  
大きくレイアウト

図 11 脳動静脈奇形  
脳血管撮影所見(a, b)を参考にすることで3D-CTA(g)  
a: 左内頸動脈撮影

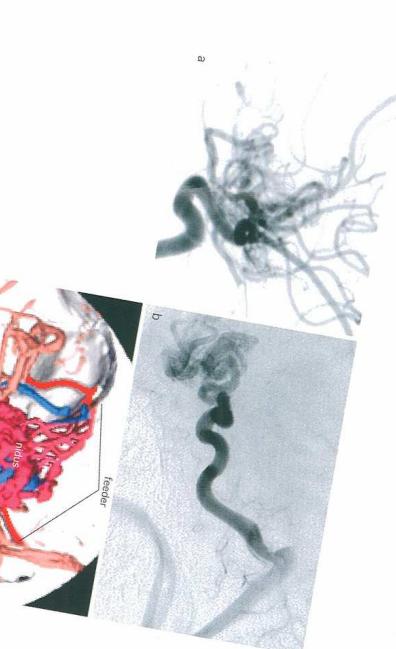
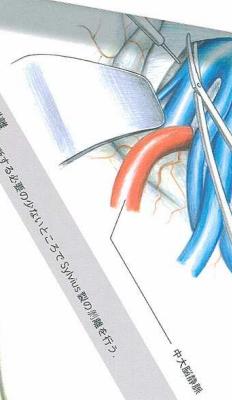


図 6 SYLVIUS 騰脈の走行を観察



破膜脳動脈瘤

10

10

筋膜  
tempo  
approac  
a

ventricular arrhythmia  
報告されてい  
tip ANに焦点を

1

各疾患について診断から治療まで詳しく記載

『西行の歌』

# 特色

Characteristics

1

## 脳神経外科学のエンサイクロペディア

脳神経外科の臨床に求められるすべてを網羅。

臨床を重視したプラクティカルな内容で、

それぞれの巻は、独立した単行本としても役立つ構成です。

2

## 第一線の研究者・臨床医が総結集

研究・臨床の最前線にいる気鋭の脳神経外科医600名による執筆。

各分野における成果と最新の知見を余すところなく解説します。

3

## 精緻なイラスト、豊富な写真

症例写真と精緻なカラーイラストを多用。

ビジュアルな構成でわかりやすく配慮しました。

4

## 大きな判型、オールカラーで見やすいレイアウト

ひとまわり大きいA4判サイズ。

オールカラーでポイントをつかみやすくレイアウト。

5

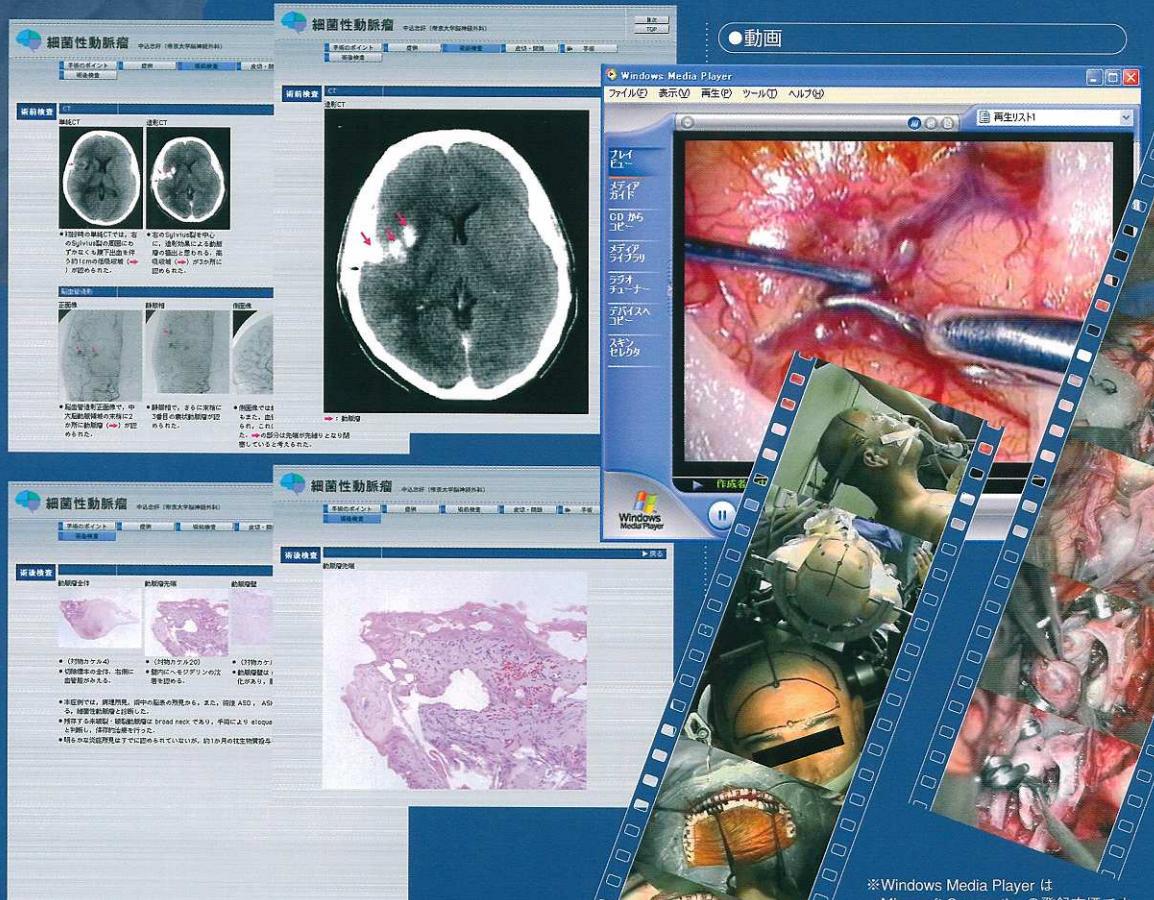
## 手術手技のポイントとコツを動画(DVD)に収録

実際の手術の流れに沿って、手術のポイントとコツを音声による解説と動画で編集。

さらに体位、皮切・開頭、術前・術後所見を示すことで全容の把握を容易にしました。



付属のDVDには、動画として、開頭の様子、手術を収録。それ以外にも、症例紹介、手術のポジショニング、術前・後所見、なども収載しています。



※Windows Media Player は  
Microsoft Corporationの登録商標です。

●全15巻の構成と専門編集

1 神経科学

河瀬 賦(慶大)

2 検査・診断法 DVD付

吉田 純(名大)

3 基本手術手技,解剖,麻酔 DVD付

山浦 晶(千葉大)

4 周術期管理

児玉 南海雄(福島医大)

5 脳神経外科救急

有賀 徹(昭和大)

6 脳腫瘍 I DVD付

吉田 純(名大)

7 脳腫瘍 II DVD付

河瀬 賦(慶大)

8 出血性脳血管障害 DVD付

児玉 南海雄(福島医大)

9 閉塞性脳血管障害 DVD付

橋本 信夫(京大)

10 機能神経外科 DVD付

片山 容一(日大)

11 脊椎・脊髄疾患,末梢神経・自律神経疾患 DVD付

橋本 信夫(京大)

12 神経外傷,感染・炎症性疾患 DVD付

山浦 晶(千葉大)

13 小児脳神経外科 DVD付

山浦 晶(千葉大)

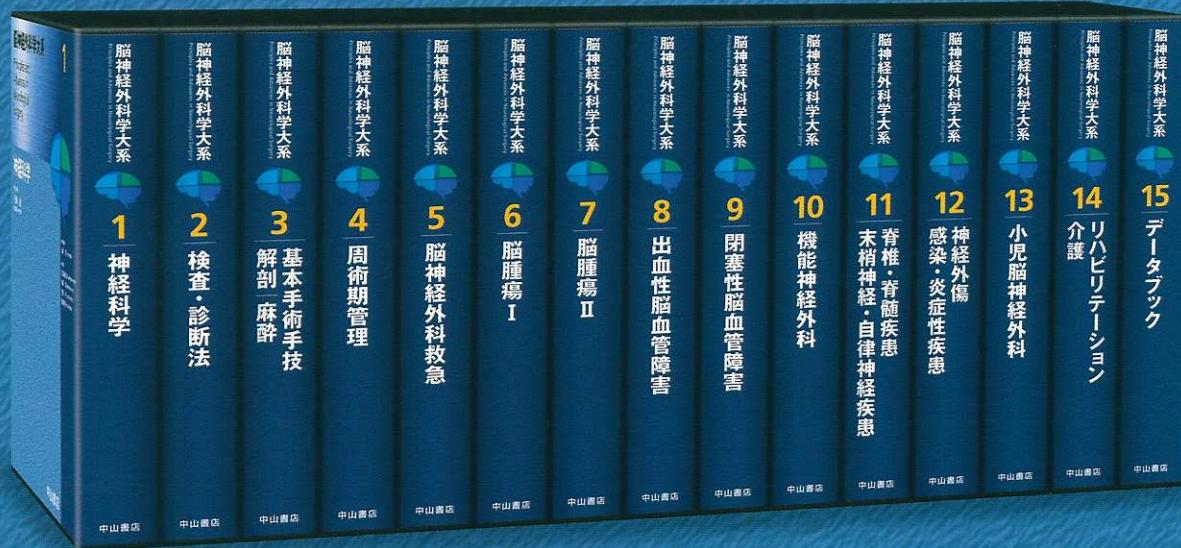
14 リハビリテーション,介護

木村 彰男(慶大)

15 データブック

山浦 晶(千葉大)

※内容に若干の変更があり得ますので、ご了承ください。



A4判 函入上製 各巻400~500頁 オールカラー DVD付(上記参照)

中山書店

〒113-8666 東京都文京区白山1-25-14

TEL:03-3813-1100

FAX:03-3816-1015

E-mail : nsque@nakayamashoten.co.jp  
URL : http://www.nakayamashoten.co.jp/

お取扱書店